

# KU WanderVogel

名峰白山  
南竜ヶ馬場

2014年  
7/28~7/30

## ヤマジイージ 元気はつらつ 名峰白山を歩む

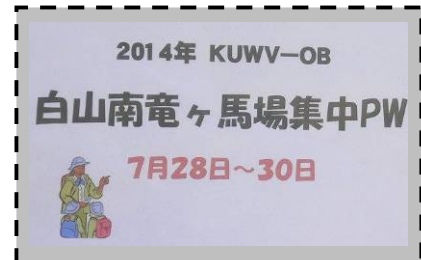
ヒント《昭和21年生れが最も若い。10名の高齢者グループ》  
このヒントから、何を想像しますか。

- ー 町内会の敬老会に招かれたおじいちゃん・おばあちゃん
- ー デイサービスの送迎バスで静かにしている要介護者と、答えるのが一般的解答かな。でも今回に限っては、的外れ。正解は、《白山を元気に登る KUWV・OB グループ》

名峰白山の登山道を、立派な登山靴をはき、カラフルな最近のザックを背負い（キスリングではありません）、全員が整然と統制のとれた隊列を組み、元気に歩く山仲間グループだ。その後姿は、日頃から訓練されたどこかの現役山岳会を思わせる。

ザックをおろし、腰を下ろし、水で一息つく顔を覗き込むと、その正体はヤマジイージ（山爺）。この顔は、町内会の敬老会やデイサービスのバスの中でも似合う年代。だが実態は、《元気はつらつヤマジイージ集団》だ。

彼らを正面からとらえた写真（下）で見れば、50年前の紅顔の美少年達も、白山のハイマツのように、永年の風雪に耐えた顔つきに変貌しているね（正しくは、成長しているね）。



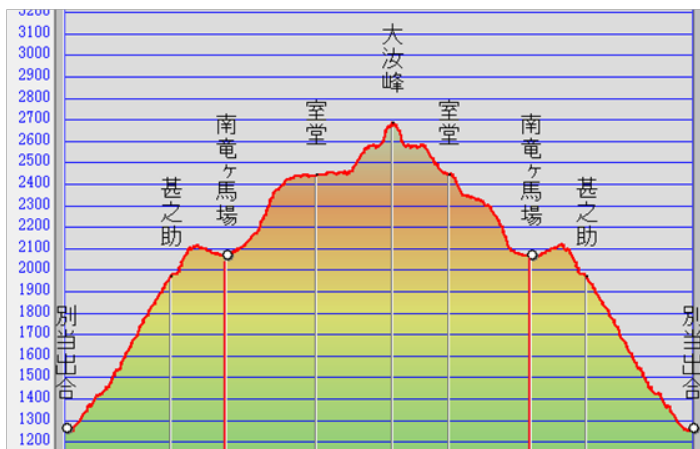
室堂と別山



ウソ 7.28 at 南竜

(この行程図は、二日目に大汝峰のコースを歩いたグループの三日間の行程図である。)

行程高低図



|        |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|
| 累積標高差+ | 895m  | 679m  | 86m   |
| 累積標高差- | 86m   | 679m  | 895m  |
| 距離     | 4.7km | 8.8km | 4.7km |
|        | 第1日   | 第2日   | 第3日   |

右の写真は、最終日の下山途中で撮ったもの。みなさん、天気にも恵まれ、3日間の白山南竜 PW を十分に楽しみ、満足した感じだ。

その楽しかった PW の様子を次ページ以降に記載。その状況が的確に伝えられるかどうか心配だ。

満足な顔で下山



行程概略

7月28日(月) 晴

別当出合→南竜ヶ馬場(泊)

- ・各自自由に南竜に集合
- ①午前派：合津・山村  
伊藤・白井
- ②午後派：穴田・伊豫  
吉田・島林・鍋島

7月29日(火) 晴

ワンデリング(自由行動)

- ・各自が希望コースを設定選択
- ・3グループに分かれる
- ①大汝組(早出組)  
山村 鍋島
- ②大汝組 残り全員
- ③別山組 島林
- ・吉田下山 山中合流

7月30日(水) 晴

南竜ヶ馬場→別当出合  
全員一緒に下山

参加者 10名

(敬称略)

(前頁写真 前列左から)

①伊藤俊成 9期  
(PW 幹事長)

②島林仁司 10期

③山村嘉一 8期

④合津 尚 6期

(前頁写真 後列左から)

⑤穴田昭一 8期

⑥鍋島 武 9期

(記録・報告担当)

⑦白井 勇 9期

⑧伊豫欣二 8期

⑨山中重夫 9期

(前頁写真 右窓)

⑩吉田幸造 9期

写真提供者(敬称略)

山村嘉一 穴田昭一  
伊藤俊成 島林仁司 鍋島武

誠に貴重な写真をご提供いただき、感謝申し上げます。写真一枚一枚に、撮影者を明記すべきですが、ご容赦願います。



第1幕

見上げてごらん 夜の星を



「あっ 流れ星だ」  
「あれが北斗七星」  
「天の川を見るのも久しぶりだ」  
「北斗七星のひしゃくの先端部分の長さの 5 倍くらい先に、北極星が見つかるよ」  
「こんな素晴らしい星空は、いつ以来からだろうかな」

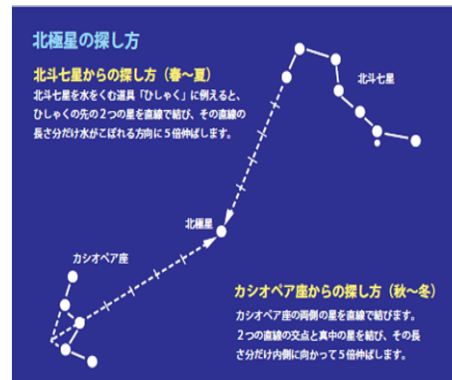
南竜馬場ヶ原の夜は足元を照らすものもなく真暗闇。わずかに吹いている風音以外は何も聞こえず、まさに静寂の世界。

眼を空に転ずれば、満天の星。

平素は野暮な KUWV/OB の山男達も、この南竜にたたずみ、星空を見上げれば、ロマンを感じずにはおれないであろう。この星空をじっと見上げていると、宇宙の彼方のずっとその先に、吸い込まれてしまうような気分になってしまう。



南竜ヶ馬場の夕焼け  
この後、空に、満天の星が



大田原市天文館ホームページから

第2幕

迎えてごらん ご来光を



第二日目午前3時起床。昨晚、みんなで感動した満天の星空が今なお輝き続けている。ヘッドランプで足元を照らす男二人（山村、鍋島）。1時間の急登の末、展望コースの尾根・アルプス展望台に到着。

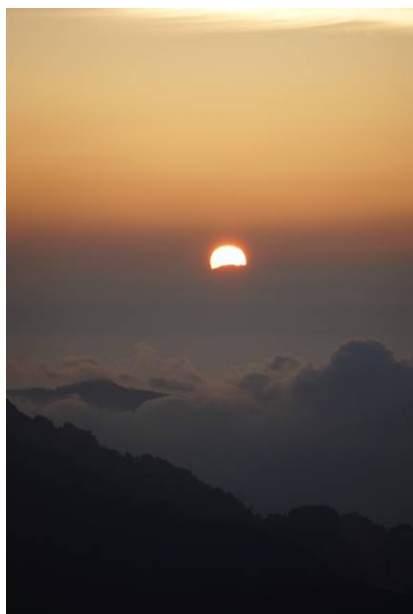
山シャツの上に、フリースと更に防寒具を重ね、冷たい風を避けるためにハイマツの陰に身を寄せる（下界の猛暑は白山までは届かない）。

太陽が昇るはずの北アルプス方向は、雲に覆われている。北アルプスの展望は期待できない。ただその雲の上は、青空のようだ。ワクワクしながら、我が太陽が顔を出すのを待つ。

その雲が徐々に赤みがかってきた。間もなくだ。そして、遂に。

ご来光！

ああ 何と清々しい気分なのだろうか



日の出直後の荒島岳